

# 1 研究主題

令和6年度

思いや考えを表現し、深めていく児童の育成  
～ICT機器（タブレット端末）を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」を通して～

## 2 主題設定の理由

昨年度に引き続き、研究主題を【思いや考えを表現し、深めていく児童の育成～ICT機器（タブレット端末）を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」を通して～】と設定した。

今年度の学校経営方針でもある、子どもを「主語」にした授業の展開を目指す上で、学校を、みんなで課題を追究して協働して学ぶ場にしていくことが必要である。学力を身に付けて自立・協働・創造できる人を目指し、ICT機器を有効に活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びを推進していく。

＜昨年度末の児童向けのアンケート結果＞

設問「みんなで話し合って学習することは好きですか」・・・肯定的8割

設問「自分の考えを発言、発表することが好きですか」・・・肯定的5割弱

設問「タブレットを使って、学習をすることは好きですか」・・・肯定的9割弱

「思いや考えを表現する」方法として、声に出して発言、発表することを大切にしてい  
くが、ICT機器を有効に活用することで、発言、発表が好きでない児童も、思いや考え  
を表現して、深めていけるように手だてを考えていく必要がある。

## 3 研究組織

3年生以上は教科担任制が始まる年度でもあるため、教科分科会とする。

1年生分科会	1年生の担任
2年生分科会	2年生の担任
専科分科会	音楽科・図工科・外国語科専科
社会科分科会	3～6年生の教科担任
理科分科会	3～6年生の教科担任
体育科分科会	3～6年生の教科担任
総合分科会	3～6年生の教科担任

#### 4 研究の進め方

- 研究全体会で、昨年度までの研究、今年度の研究について周知・提案
- 講師を招いて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」についての講演会
- 7つの分科会で研究授業の実施
  - ・1年生分科会、2年生分科会、専科分科会は、教科のしぼりはなしとする。
  - ・教科分科会は、系統的に考える機会とする。
- 研究授業後に成果と課題をまとめ、日々の授業に生かしていく。
- タブレット端末についてのオンライン研修会や、校内研修会を随時実施

#### 5 研究経過

5月 2日(木)	講演「個別最適な学び」と「協働的な学び」について
5月24日(金)	研究授業① 社会科分科会 第5学年 社会科「米づくりのさかんな地域」
6月 7日(金)	研究授業② 専科分科会 第6学年 音楽科「いろいろな音のひびきを味わおう」
6月26日(水)	研究授業③ 総合分科会 第4学年 総合的な学習の時間「My研究」
7月12日(金)	研究授業④ 体育科分科会 第3学年 体育科「キャッチバレーボール」
9月26日(木)	研究授業⑤ 2年生分科会 第2学年 国語科 読んで考えたことを話そう「どうぶつ園のじゅうい」
10月17日(木)	研究授業⑥ 理科分科会 第5学年 理科「もののとけ方」
1月27日(月)	研究授業⑦ 1年生分科会 第1学年 算数科「どちらが ひろい」

## 6 成果と課題

### (1)成果

- 課題や調べ方、表現の仕方などを、児童自身で選んで取り組む活動を取り入れることで、自らの学習を調整する力を育むことにつながった。
- みんなで話し合っただけで学習することに興味や関心をもち、自己の考えを広げることができた。
- 個別最適な学び、協働的な学びを推進するなかで、学習のねらいに合わせた ICT 機器（タブレット端末）の活用につながりが出た。

- ・同時編集が可能なアプリケーションを活用し、他の子の考えを参考にしながら考えた。
- ・共有機能を使って、全員分の考えや作品を見合い、考えを広げた。
- ・理科では、実験結果の数値をアプリケーションに入力して集約することで、瞬時にグラフ化した。
- ・音楽科では、つくったリズムを音で確認することができ、いろいろなリズムの組み合わせを試しながら、音楽づくりを行った。
- ・体育科では、タブレット作戦ボードを使用することで、動き方などを視覚的に理解できたり、話し合いが活発になったりした。

- 第3学年～第6学年の教科担任からなる教科分科会を設定したことで、系統的に考えることができた。

### (2)課題

- さらに教師がファシリテーターに徹し、学習の見通しをもたせたら、子どもに「自走」させる学習展開を目指していく必要がある。
- 児童自身が行いたいことに合わせてアプリケーションを選べるようにしていく必要がある。
- 学年の実態を考慮し、段階を踏んだ個別最適な学び、協働的な学びのすすめ方を研究していく必要がある。